

<その1>

深田4団BS隊長・榎本38団BS副長 実修所に参加
 去る11月1日～11月7日 両名は自ら優秀なスカウト
 をめざして、第33期 岡山県金光市での実修所に参加、無
 事、修了されました。今後の、38・4団の名誉と栄光は、両名
 の活役にかかっているといても過言ではないでしょう。[WC共同]

<その2>

1975年1月1日には 何が起ころう。

今年から就職して、もうお年玉のもらえなくなる 数ちゃん。就
 職してももらっている 原ちゃん、その他誰かも、正月1日には、
 新年の集いに参加しなければならない。来ないスカウトか
 らは、お年玉を取りあげちゃうから。 [マックス通信]

<集合> '75元旦 8:30 a.m. 長休寺 全員制服のど

<その3>

昔々、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。
 おじいさんが山に洗たくに行くと、裏のボチが こぼれワンワ
 ンとなくのぶ桃を割ると、親指姫がポコッと生まれました。ピー
 ターパンは大きくなると毎晩月を見てシクシク泣くので、おばあさんは
 カチカチ山に柴刈りに行きました。するとサルが おにぎりを取っ
 しまったのでカニさんはおこってしまいました。 めずたしめずたし。

<ひみつのワズ> さあ、いくつ お話が できたかな

<その4>

シカゴ支部長 Mr. Mizuno に 9月8日
 女の子が生まれました。カレンちゃんと言う
 のです。彼は早くも未来の花ムコを募集中とか



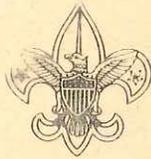
ハウス長休協賛会委員会誌事録 49.10.13. PM.730

50年度 4団 原田(副会長)、高木(会計)、前田、深田
 報構成 38団 今村(会長)、河原、佐藤、野崎、中村、今村晃一(管理春)

50年度予算案		(収入)	(支出)
前年度繰越金	192,000	水道電気代	50,000
管理費分担金(143名)	170,000	補給費	30,000
新入団費“(18名)	90,000	慶弔	10,000
4-7売上金(200名)	30,000	中元歳暮	20,000
		外灯(141枚)	40,000
		塗装(鉄骨部)	30,000
		4-7製作費(300枚)	120,000
		借入金返済用積立金	100,000
		予備費	82,000
		482,000	482,000

- 報告・決計事項
- ハウス使用について。今後は、使用届用紙(印刷中)に、所定事項を記入し、管理者に連絡してNO.を指示された後、小川先生方に提出して、使用責任を明確にする。
 - 灯油は、山川ストアで購入し、請求書も会計係へ廻す事。
 - 連絡用ホム4テレホン。今回CSおよびBSへの上進者より記念として430,000の寄贈を頂き、不足分は予備費より補充する事とする。
 - 4-7(1本200円)は、11/10日頃に出まわり、報恩講で配布する予定。
 - 報恩講は、11/16日(土)PM7:00よりで、6:30から準備は専ら役員CS2名、4BS2名、38BS2名の6名が奉仕する事とする。
 - 末吉氏よりスケール製物置の寄贈があった。深謝致すと共に、大切に使用して行きたい。
 - 桶の設備。前田氏に見積りも依頼。
 - 外灯設備。38BSが奉仕する。(深田氏の指示で...)
 - 塗装は、鉄骨部分を重点的に、前田氏の指示で38BSの奉仕。

Discover Yourself in the "High Country."



その 1

中村三之助

国際キャンプ スタッフ派遣報告

○74年度、国際キャンプスタッフの一員として参加し、多くの貴重な体験をして帰って来まして、報告会という形で、スライドを通じて一応の報告はすわることができましたが、私自身、渡米前に自分自身の課題とした項目の報告等がまだ不十分であると思います。今回から、この紙面を通じて数回に分けて報告し、皆様方の御批判、御批評を受けたまわりかと思っております。どうぞ、次回から通して御購読下さいませようお願いします。

◇私は、派遣の際、何かアメリカのスカウティングに対して課題なりの問題意識を持って参加しようと思った。そしてスカウティングにおいて「種」と言われる「班別制度」「進歩制度」がいかに導入されて活動が行われているのだから、一つこれを今回の渡米課題にしました。

まず最初に断っておくが、私がオハイオ州、キャンプマイロンカーブに6週間生活し、他にボーイスカウトの家庭滞在をした時に多数のスカウター、スカウトから話を聞き、又この目で見て来たこと、つまり私個人の体験から述べるのであって、このことがアメリカ全地のスカウティングを意味している



→のではないのである。しかし、少なくとも私が体験した所では次のようであるのである。

〈班制度の軽視〉

○まず隊組織であるが、これは日本とほとんど同じく、隊長(21才以上)、副長(18才以上)、副長補(16才以上)、上級班長(高校生又は中学生)、班長、次長、班員という形で成り立っている。変わった所は、上班班長、又は副班長という日本を言えば随分と違った所の役務がある。組織面では別に問題はないと思う。次にその実際活動面での班制度であるが、私が6週間のキャンプ生活の間、様々な隊、スカウトと接したが、その結果、日本でも同じ事だが、私から見ても優秀な隊、メチャクチャな隊と色々である。何も技能、規律のみを言っているのはいい。私が思うに班制度において大事な事は、班組織を前提の基において、隊長から上班、またグリーンキー訓練、グリーンキー会談(アメリカでは、今はこのように言わず Troop Leader Counsel といっている)等のリーダー・上班からグリーンキー、そしてグリーンキーから班員という導入の流れのプロセスである。この点で私が聞き、又、体験した上からキャンプ中の事について述べて見ると、私が滞在していたキャンプ場では、毎週約8~10隊がキャンプインする。その参加する隊のスカウト数は様々で、少ない隊は7名程、多い隊は30名程である。それらの隊のキャンプ出席率は、平均50%~60%ということである。これは、日本の夏季キャンプに比べてかなり低い出席率であります。とすることは、例えば、6人編成班が3班ある隊があるとしよう。その内50%の出席率でキャンプに参加したとすると、3人編成班が3班になる事になる。すると3人の班がキャンプ中、班長を中心として班活動、作業、運営がうまくやっけていけるかという事になる。もし、我々の感覚からいえば、このキャンプの意義、班制度の意義というものに疑問を持つことだと思います。当然、キャンプでは、班が必要であり、班員も必要とされているのです。また、ある隊ではもっと出席率が悪い隊があった。それでは、このようにしてキャンプに参加するのはどうでしょうか?



次回につづく